

教職・学芸員

(ページ)	(授業コード)	(科目名)	(担当教員)
1	91000000	教職論	鴫崎 敏彦,古川 和
3	91001000	教育原理	小林 福太郎
5	91003000	教育行政学	小林 福太郎
7	91008000	農業科教育法I	後藤 哲
9	91011000	特別活動実践法	鴫崎 敏彦,杉原 光雄
11	91012000	教育方法論	恵良 美津子,秋元 有子
13	91015000	教職実践演習	柿沼 美紀,鴫崎 敏彦
15	91016000	教育実習 I	柿沼 美紀
17	91017000	教育実習 II	柿沼 美紀
19	91018000	教育実習事前・事後指導	柿沼 美紀
21	91019000	物理学Ⅱ(教職N)	八木 昌平
23	91020020	物理学実験(教職N)	八木 昌平
25	91020530	物理学実験(教職Z)	八木 昌平
27	91021000	化学Ⅱ(教職N)	田崎 弘之
29	91023000	生物学Ⅱ(教職N)	土田 修一
31	91024000	生物学実験(教職N)	土田 修一,畠山 仁
33	91025000	地学I	市野 美夏
35	91026000	地学II	市野 美夏
37	91027000	地学実験	森 美文
39	91030000	日本国憲法	井上 知樹
41	91031000	コンピュータ概論演習(教職V)	山本 和義
43	92008000	生涯学習概論	中畠 洋
45	92009000	博物館概論	田代 英俊
47	92010000	博物館経営論	田代 英俊
49	92011000	博物館資料論	箕輪 多津男
51	92012000	博物館資料保存論	奥田 環
53	92013000	博物館展示論	草刈 清人
55	92014000	博物館教育論	草刈 清人
57	92015000	博物館情報・メディア論	時田 昇臣,小林 秀明

教職・学芸員

(ページ) (授業コード) (科目名)

59 92016000 博物館実習

(担当教員)

梶ヶ谷 博, 時田 昇臣

科目No.	910000T2	科目区分	教職
科目名	教職論	単位数	2.0
学科	教職	学年	2
担当教員	鴫崎 敏彦, 古川 和		

授業のねらい	<p>この授業は「教職とは何か」についての基本的な概念を習得することを目的とする。具体的には、以下の内容を扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教職の意義および教員の役割 2. 教員の職務内容（研修、服務および身分保障等を含む） 3. 進路選択に資する各種の機会の提供等 			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職の意義および教員の役割について理解する。 2. 教員の職務内容（研修、服務および身分保障等を含む）について理解する。 3. 教員に求められる資質能力について理解する。 			
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能				
履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1～2限連続で授業を行う週がある。 2. 上記1.の件や授業の方針などを詳しく説明するので、履修する学生は初回の授業に必ず出席すること。 			
概要・スケジュール	第1回： 鴫崎 敏彦 第2回： 鴫崎 敏彦 第3回： 鴫崎 敏彦 第4回： 鴫崎 敏彦 第5回： 鴫崎 敏彦 第6回： 鴫崎 敏彦 第7回： 鴫崎 敏彦 第8回： 古川 和 第9回： 古川 和 第10回： 鴫崎 敏彦 第11回： 鴫崎 敏彦 第12回： 鴫崎 敏彦 第13回： 鴫崎 敏彦 第14回： 鴫崎 敏彦 第15回： 鴫崎 敏彦	オリエンテーション（教職とは何か） 学校教育と教育課程 教員の職務と校務分掌 教科の指導における教員の役割 道徳の指導における教員の役割 総合的な学習の時間の指導における教員の役割 特別活動の指導における教員の役割 生徒指導をめぐる諸問題と教員の役割 進路指導をめぐる諸問題と教員の役割 家庭との連携（保護者対応を含む） 教育実習の実際とその意義 教員採用試験の現状と対策 理想の教師像①（グループワーク） 理想の教師像②（グループ毎の発表） 全体のまとめ		
授業期間を通して課される課題				

科目No.	910000T2	科目区分	教職
科目名	教職論	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	1. 講義内容の復習 (60分) 2. 教科指導に必要な知識の習得 (60分)		
テキスト・参考文献他	テキスト： 授業時に適宜指示する。 参考文献：『中学校 学習指導要領 平成20年3月告示』（東山書房） 『高等学校 学習指導要領 平成21年3月告示』（東山書房）		
授業形態	講義，グループワーク，発表など多様な方法を用いる。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	50%	学期末に定期試験（論述式）を実施する。
レポート試験	0%	-
平常点評価	50%	発表，ディスカッションへの参加態度，提出物などで総合評価する。

オフィスアワー	梶崎 敏彦： 英語学教室（E棟1階） tokizaki@nvlu.ac.jp（×を@に変えて使用すること） Eメールにて面接を受付または予約（月曜 12:00～12:40）
その他	遅刻・早退3回で欠席1回とみなし，大幅な遅刻・早退（30分を超えた場合）は欠席扱いとする。欠席が全授業日数の3分の1を超えた場合は単位を認めない。

科目No.	910010T2	科目区分	教職
科目名	教育原理	単位数	2.0
学科	教職	学年	2
担当教員	小林 福太郎		

授業のねらい	教育原理は、教職課程開講科目の中で総論に相当するものであり、教職を目指す学生が基本的に押さえておくべき重要な内容を網羅的に取り上げていく。教育の根源的な理念にかかわる内容から、教育指導を実践する際に必要な基本的な方法等を主体的に学ばせ、教育公務員として必要な資質・能力の基盤を築いていく。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人間にとって教育がいかに必要であるかを明確に認識し、学校教育への興味・関心を高める。 ・学校教育の成り立ちや役割を的確に認識し、教育に関わる基礎的・基本的事項を理解する。 ・教育のすばらしさと厳しさを主体的・多面的に共感し、自ら教職を目指そうとする意欲と態度を形成していく。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	将来、教員を目指す学生の履修が望ましいが、その他の場合においては、教育に関して強い興味と関心をもっていることが大切である。
概要・スケジュール	第 1 回目 序論 ～教育の在り方と学校の役割～ 第 2 回目 学校の役割と教師の資質・能力 第 3 回目 教授理論の基礎と学習形態の実際 第 4 回目 学校の変遷と日本の教育制度 第 5 回目 授業の構造と教育指導の成り立ち 第 6 回目 教育課程の理念と学習指導要領の意義 第 7 回目 学習指導要領の変遷と教育課題の実際 第 8 回目 教育改革の現代的課題 第 9 回目 教科指導の内容と実際 第10回目 道徳教育の実践と課題 第11回目 総合的な学習の時間と特別活動の実践と課題 第12回目 教育公務員の使命と役割 教職員の修養と研究 第13回目 学校経営の方策と教育活動の実際 第14回目 生涯学習の理念と実際 第15回目 総論 ～教員として何を大切にして生きていくべきか～
授業期間を通して課される課題	適宜に配布する資料や学習指導要領解説書－総則編－等を事前に熟読してまとめておく。

科目No.	910010T2	科目区分	教職
科目名	教育原理	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予習(90分) 次週の内容について、授業中指示した参考図書等で学び、内容を簡潔にまとめておく。 ・ 復習(90分) 授業内容を振り返り、主たる内容をパワーポイントの画面に図式化してまとめる。 		
テキスト・参考文献他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育小六法 ・ 学習指導要領 ・ 学習指導要領解説書～総則編～ ・ 学校運営便覧（教育出版） 		
授業形態	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教室での講義 ・ 少人数グループによる討議及び発表 等々 		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	50%	学期末に試験を実施する
レポート試験	30%	授業中に適宜課題を示して実施する（後日、全員提出）
平常点評価	20%	出席日数及び授業への参加態度等を総合的に評価する

オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 非常勤講師室（授業の前後の時間） ・ メール等で相談を受け付けます。（アドレスは授業中に連絡）
その他	

科目No.	910030T2	科目区分	教職
科目名	教育行政学	単位数	2.0
学科	教職	学年	2
担当教員	小林 福太郎		

授業のねらい	子どもたちのために教育の向上を実現していくには、教育の理念と行政の機能の融合を図ることが重要である。そこで、教育行政の内容や在り方等を総括的に学び、さらに現代の教育課題を認識して、指導を実践していく上で必要とされる知識や手だてを主体的に身に付け、教員として必要な資質・能力の基盤を築いていく。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育を進めていく上で教育行政が果たす役割と意義の重要性を理解し、学校教育への興味・関心を高める。 ・今日の教育課題を認識し、その対応の在り方や具体的な方策を学び、自ら取り組もうとする意欲を高める。 ・教育のすばらしさと厳しさを多面的に理解し、教職を目指そうとする意欲と態度を形成していく。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	将来、教員を目指す学生の履修が望ましいが、その他の場合においては、教育に関して強い興味と関心をもっていることが大切である。
概要・スケジュール	第 1 回目 序論 ～教育の目的と方法～ 第 2 回目 我が国の公教育制度 第 3 回目 教育法制の構造と機能 第 4 回目 教育行政の概念と制度 第 5 回目 教育委員会の機能と改革 第 6 回目 教育行政と教育改革のかかわりと取り組み 第 7 回目 学校選択制の本来の在り方と学校力の向上 第 8 回目 義務教育の再構築への取り組みの実態 第 9 回目 学力調査の実施と公表の在り方 第10回目 いじめ・不登校の実際と指導の在り方 第11回目 健全育成と生徒指導の在り方と実際 第12回目 外部評価制度と情報公開の在り方 第13回目 学校事故と教職員の服務規律の徹底 第14回目 人権教育の在り方と重要性（教職員の採用・養成・研修の実際） 第15回目 総論 ～これからの学校・教員の在り方～
授業期間を通して課される課題	適宜に配布する資料や学習指導要領解説書－総則編－等を事前に熟読してまとめておく。

科目No.	910030T2	科目区分	教職
科目名	教育行政学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予習 (90分) 次週の内容について、授業中指示した参考図書等で学び、内容を簡潔にまとめておく。 ・ 復習 (90分) 授業内容を振り返り、主たる内容をパワーポイントの画面に図式化してまとめる。 		
テキスト・参考文献他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育小六法 ・ 学習指導要領 ・ 学習指導要領解説書～総則編～ ・ 学校運営便覧 (教育出版) 		
授業形態	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教室での講義 ・ 少人数グループによる討議及び発表 ・ 個人発表 (プレゼンテーション) 等々 		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	50%	学期末に試験を実施する
レポート試験	30%	授業中に適宜課題を示して実施する (後日、全員提出)
平常点評価	20%	出席日数及び授業への参加態度等を総合的に評価する

オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 非常勤講師室 (授業の前後の時間) ・ メール等で相談を受け付けます。(アドレスは授業中に連絡)
その他	

科目No.	910080T2	科目区分	教職
科目名	農業科教育法I	単位数	2.0
学科	教職	学年	2
担当教員	後藤 哲		

授業のねらい	詳細は開講までに公開する。
到達目標	詳細は開講までに公開する。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	詳細は開講までに公開する。
授業期間を通して課される課題	

科目No.	910080T2	科目区分	教職
科目名	農業科教育法I	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	詳細は開講までに公開する。		
テキスト・参考文献他			
授業形態	詳細は開講までに公開する。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	-	-
レポート試験	-	-
平常点評価	-	-

オフィスアワー	詳細は開講までに公開する。
その他	

科目No.	910110T2	科目区分	教職
科目名	特別活動実践法	単位数	2.0
学科	教職	学年	2
担当教員	鴫崎 敏彦, 杉原 光雄		

授業のねらい	「ゆとりある心」「豊かな心」を育てる上でも、特別活動は、教科活動と並ぶ重要な柱だといえる。本科目では、学校教育における特別活動の意義や諸問題について様々な観点から検討を加える。具体的には学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ活動の各領域の指導法の在り方について考察する。
到達目標	特別活動の内容及び指導法について理解し、実践的な指導力を身に着けることを目標とする。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	遅刻(早退)3回で欠席1回とみなし、30分を超える遅刻(早退)は、欠席扱いとする。欠席数が全授業実数の3分の2を超えた場合は、単位を認めない。なお授業の方針などを詳しく説明するので、履修する学生は、初回の授業に出席すること
概要・スケジュール	1オリエンテーション-特別活動の意義と役割(鴫崎) 2クラブ・部活動(1) クラブ・部活動の意義と課題(杉原) 3クラブ・部活動(2) 集団活動とリーダーシップ(杉原) 4学校行事(1) 学校行事の内容と意義(杉原) 5学校行事(2) 学校行事と総合学習(杉原) 6学校行事(3) 行事案の作成(杉原) 7学校行事(4) 課題発表(杉原) 8学校行事(5) 学校行事の諸問題(杉原) 9生徒会活動(1) 生徒会活動の内容と意義(杉原) 10生徒会活動(2) 課題発表(杉原) 11学級活動・ホームルーム活動(1) ホームルーム活動の計画(杉原) 12学級活動・ホームルーム活動(2) 課題発表(杉原) 13学級活動・ホームルーム活動(3) 年間指導計画の作成(杉原) 14学級活動・ホームルーム活動(4) 構成的グループエンカウンター(杉原) 15まとめ(鴫崎)
授業期間を通して課される課題	発表課題(4回)、小レポート(3回)

科目No.	910110T2	科目区分	教職
科目名	特別活動実践法	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習（90分）、復習（90分）		
テキスト・参考文献他	長沼 豊，林 幸克，柴崎 直人（編著）『特別活動概論（改訂第2版）』久美出版		
授業形態	講義、グループ討論、発表など多様な方法を用いる。		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	0%	実施しない
レポート試験	30%	小レポート（リアクションペーパー）を3回を課す。
平常点評価	70%	出席、発表課題などもとに総合的に評価する。

オフィスアワー	授業時に指示する。
その他	

科目No.	910120T2	科目区分	教職
科目名	教育方法論	単位数	2.0
学科	教職	学年	2
担当教員	恵良 美津子, 秋元 有子		

授業のねらい	授業の中で生徒たちが体験する困難を、LD、ADHD等の生徒たちのつまずきを通して理解し、教員としてわかりやすい授業を進めるために必要な配慮、方法等を具体的に知る。		
到達目標	1. 認知能力障害との関連から生じる学習のつまずきについて理解する。 2. 1)について、教えるときの配慮、支援方法を知ることにより、全ての生徒にわかりやすい授業を考えられる。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第1回	秋元	自分自身の得意な課題、苦手な課題や工夫して学習方法を振り返る
	第2回	秋元	文部科学省のLDの定義
	第3回	秋元	読むことの困難 その症状と学習に影響する様々な問題
	第4回	秋元	読むことの困難 文章を読むことに現れる問題とその支援
	第5回	秋元	記憶障害のある人の覚え方や理解のしかた
	第6回	秋元	書くことの困難 教室の中で現れる問題とその配慮、支援
	第7回	秋元	計算することの困難 計算等に見られるつまずきとその支援
	第8回	秋元	視空間認知障害に関連する学習の問題
	第9回	秋元	記憶に弱さのある生徒が、理科の学習課題に示す困難と支援
	第10回	秋元	記憶に弱さのある生徒が、理科の学習の中で強みを示す課題
	第11回	秋元	視空間認知障害のある生徒が、理科の学習課題に示す困難と支援
	第12回	恵良	注意集中困難を示す生徒に対する配慮と支援
	第13回	恵良	行動上の問題を示す生徒に対する配慮と支援
	第14回	恵良	授業形態を含め、わかりやすい授業について考える
	第15回	秋元	覚え方、理解のしかたが異なる生徒にとってわかりやすい授業を考える
授業期間を通して課される課題			

科目No.	910120T2	科目区分	教職
科目名	教育方法論	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	指示された配布資料を事前に読むこと（20分） 理解を深めるために、授業内容を必ず復習し、整理する（60分）		
テキスト・参考文献他			
授業形態	教室内での講義、 少人数での話し合い		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	80%	学期末に定期試験を実施する
レポート試験	0%	実施しない
平常点評価	20%	出席、質疑応答等積極的な参加を総合的に評価する

オフィスアワー	メールアドレス kyomu@nvlu.ac.jp 実施方法：教務・学生課を通して調整する
その他	

科目No.	910150T4	科目区分	教職
科目名	教職実践演習	単位数	2.0
学科	教職	学年	4
担当教員	柿沼 美紀, 鴫崎 敏彦		

授業のねらい	教職課程の他の授業科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて身に付けた資質能力が、教員として必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、最終的に確認することを目的とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職の意義や教員の役割、職務内容、生徒に対する責務などを理解する。 2. 個々の生徒の特性や状況に応じた対応を習得し、学級をまとめる手法を身に付ける。 3. 教員としての表現力や授業力を身に付け、生徒の反応を活かした授業づくりができる。 		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第1回： 柿沼 美紀 第2回： 柿沼 美紀 第3回： 柿沼 ・ 鴫崎 第4回： 鴫崎 敏彦 第5回： 鴫崎 敏彦 第6回： 鴫崎 敏彦 第7回： 柿沼 ・ 鴫崎 第8回： 柿沼 ・ 鴫崎 第9回： 柿沼 ・ 鴫崎 第10回： 柿沼 ・ 鴫崎 第11回： 柿沼 美紀 第12回： 柿沼 美紀 第13回： 柿沼 美紀 第14回： 鴫崎 敏彦 第15回： 鴫崎 敏彦	世界の子どもたちと教育 戦前と戦後の教育観 教職の意義と教員の役割 学習指導の基本事項 模擬授業（その1） 模擬授業（その2） 模擬授業（その3） 模擬授業（その4） 模擬授業（その5） 模擬授業（その6） 模擬授業の振り返り 動物介在教育入門 動物介在教育の実践例 学校の教育方針とその具体化 理想の教師像	
授業期間を通して課される課題			

科目No.	910150T4	科目区分	教職
科目名	教職実践演習	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	1. 模擬授業の準備 (90分) 2. 講義内容の復習 (30分)		
テキスト・参考文献他	テキスト：授業時に適宜指示する。		
授業形態	講義，グループワーク，発表など多様な方法を用いる。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	-
レポート試験	0%	-
平常点評価	100%	発表，ディスカッションへの参加態度などで総合評価する。

オフィスアワー	柿沼 美紀： 比較発達心理学教室 (B棟4階) kakinuma-miki#nvl.u.ac.jp (#を@に変えて使用すること) Eメールにて面接を受付または予約 (月曜 12:00~13:00) 鴫崎 敏彦： 英語学教室 (E棟1階) tokizaki#nvl.u.ac.jp (×を@に変えて使用すること) Eメールにて面接を受付または予約 (月曜 12:00~12:40)
その他	

科目No.	910160T4	科目区分	教職
科目名	教育実習 I	単位数	2.0
学科	教職	学年	4
担当教員	柿沼 美紀		

授業のねらい	教師としての基本的な態度を身に付ける。 教壇授業や学級指導等を通して、教科指導や生徒指導に関する基礎的・基本的な実践的指導力を培う。
到達目標	教師としての基本的な態度を身に付ける。 中学・高校教員として学級経営、教科指導、生徒指導等に関する基礎的・基本的な実践的指導力を身につける。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	特別な事由がある場合を除き、遅刻・欠席はしないこと。
概要・スケジュール	<p>教職に関する科目の教育実習は3単位必修となっている。その内訳は、中学校又は高等学校の教育実習校において2~3週間に亘って行う教育実習2単位と、3年次後期から4年次後期まで行う学内での講義、演習及び実習の教育実習研究1単位からなる。</p> <p>教育実習は4年次の6月頃に行われるが、受入実習校との準備のかねあいもあるので、3年次の7月頃までには、実習校へ受入の依頼と実習校所在地の都道府県教育委員会の承認手続きを必要とする。</p> <p>3年次及び4年次の4月中に、このことに係るガイダンスを実施する。</p> <p>なお、教育実習研究(1単位)では、教育実習に係る事前指導が5月中旬頃に行われ、また、7月中旬には教育実習終了後の事後指導として、教育実習を行った学生の個人発表を課する。事前・事後指導は単位認定の重要なポイントとなるので、必ず出席しなければならない。</p> <p>(1)教育実習事前指導 各実習校における服務に関する留意事項 ● 教育実習の授業担当における教室運営と授業の進め方について技術助言 ● 教育実習日誌及び学習指導案の作成方法 (2)教育実習事後指導 教職課程小委員会並びに事務部教務課担当者により教育実習終了後の事後指導を行う。 ● 教育実習日誌の確認点検 ● 教育実習の個別報告(学生からの5~10分程度の報告) ● 実習の状況報告(実習先・規模・担当科目・クラス担当等) ● 実習の反省点(成功例・失敗例・後輩への助言) ● 学習指導案の作成状況 ● 大学あるいは教務課に対する要望 ● その他の事項 2, 3年次の教職課程履修者へのアドバイス</p>
授業期間を通して課される課題	

科目No.	910160T4	科目区分	教職
科目名	教育実習 I	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	実習前準備及び実習中に相当の時間を要する。特に実習中は教育実習に専念することが求められる。		
テキスト・参考文献他	学習指導要領教科編，教師用教科指導書，教育実習日誌のほか適宜プリントを配布する。		
授業形態	教育実習をもって授業とする		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	—
レポート試験	0%	—
平常点評価	100%	「教育実習成績報告書」により総合的に評価。

オフィスアワー	柿沼 美紀： 比較発達心理学教室 (B棟4階) kakinuma-miki#nvl.u.ac.jp (#を@に変えて使用すること) Eメールにて面接を受付または予約 (月曜 12:00~13:00) 鴛崎 敏彦： 英語学教室 (B棟4階) tokizaki#nvl.u.ac.jp (#を@に変えて使用すること) Eメールにて面接を受付または予約 (月曜 12:00~12:40)
その他	

科目No.	910170T4	科目区分	教職
科目名	教育実習Ⅱ	単位数	2.0
学科	教職	学年	4
担当教員	柿沼 美紀		

授業のねらい	教師としての基本的な態度を身に付ける。 教壇授業や学級指導等を通して、教科指導や生徒指導に関する基礎的・基本的な実践的指導力を培う。
到達目標	教師としての基本的な態度を身に付ける。 中学・高校教員として学級経営、教科指導、生徒指導等に関する基礎的・基本的な実践的指導力を身につける。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	特別な事由がある場合を除き、遅刻・欠席はしないこと。
概要・スケジュール	<p>教職に関する科目の教育実習は3単位必修となっている。その内訳は、中学校又は高等学校の教育実習校において2~3週間に亘って行う教育実習2単位と、3年次後期から4年次後期まで行う学内での講義、演習及び実習の教育実習研究1単位からなる。</p> <p>教育実習は4年次の6月頃に行われるが、受入実習校との準備のかねあいもあるので、3年次の7月頃までには、実習校へ受入の依頼と実習校所在地の都道府県教育委員会の承認手続きを必要とする。</p> <p>3年次及び4年次の4月中に、このことに係るガイダンスを実施する。</p> <p>なお、教育実習研究(1単位)では、教育実習に係る事前指導が5月中旬頃に行われ、また、7月中旬には教育実習終了後の事後指導として、教育実習を行った学生の個人発表を課する。事前・事後指導は単位認定の重要なポイントとなるので、必ず出席しなければならない。</p> <p>(1)教育実習事前指導 各実習校における服務に関する留意事項 ● 教育実習の授業担当における教室運営と授業の進め方について技術助言 ● 教育実習日誌及び学習指導案の作成方法 (2)教育実習事後指導 教職課程小委員会並びに事務部教務課担当者により教育実習終了後の事後指導を行う。 ● 教育実習日誌の確認点検 ● 教育実習の個別報告(学生からの5~10分程度の報告) ● 実習の状況報告(実習先・規模・担当科目・クラス担当等) ● 実習の反省点(成功例・失敗例・後輩への助言) ● 学習指導案の作成状況 ● 大学あるいは教務課に対する要望 ● その他の事項 2, 3年次の教職課程履修者へのアドバイス</p>
授業期間を通して課される課題	

科目No.	910170T4	科目区分	教職
科目名	教育実習Ⅱ	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	実習前準備及び実習中に相当の時間を要する。特に実習中は教育実習に専念することが求められる。		
テキスト・参考文献他	学習指導要領教科編，教師用教科指導書，教育実習日誌のほか適宜プリントを配布する。		
授業形態	教育実習をもって授業とする		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	—
レポート試験	0%	—
平常点評価	100%	「教育実習成績報告書」により総合的に評価。

オフィスアワー	柿沼 美紀： 比較発達心理学教室（B棟4階） kakinuma-miki#nvl.u.ac.jp （#を@に変えて使用すること） Eメールにて面接を受付または予約（月曜 12:00～13:00） 鴛崎 敏彦： 英語学教室（B棟4階） tokizaki#nvl.u.ac.jp （#を@に変えて使用すること） Eメールにて面接を受付または予約（月曜 12:00～12:40）
その他	

科目No.	910180T4	科目区分	教職
科目名	教育実習事前・事後指導	単位数	1.0
学科	教職	学年	4
担当教員	柿沼 美紀		

授業のねらい	教師としての基本的な態度を身に付ける。 教壇授業や学級指導等を通して、教科指導や生徒指導に関する基礎的・基本的な実践的指導力を培う。
到達目標	教師としての基本的な態度を身に付ける。 中学・高校教員として学級経営、教科指導、生徒指導等に関する基礎的・基本的な実践的指導力を身につける。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	特別な事由がある場合を除き、遅刻・欠席はしないこと。
概要・スケジュール	<p>教職に関する科目の教育実習は3単位必修となっている。その内訳は、中学校又は高等学校の教育実習校において2~3週間に亘って行う教育実習2単位と、3年次後期から4年次後期まで行う学内での講義、演習及び実習の教育実習研究1単位からなる。</p> <p>教育実習は4年次の6月頃に行われるが、受入実習校との準備のかねあいもあるので、3年次の7月頃までには、実習校へ受入の依頼と実習校所在地の都道府県教育委員会の承認手続きを必要とする。</p> <p>3年次及び4年次の4月中に、このことに係るガイダンスを実施する。</p> <p>なお、教育実習研究(1単位)では、教育実習に係る事前指導が5月中旬頃に行われ、また、7月中旬には教育実習終了後の事後指導として、教育実習を行った学生の個人発表を課する。事前・事後指導は単位認定の重要なポイントとなるので、必ず出席しなければならない。</p> <p>(1)教育実習事前指導</p> <p>各実習校における服務に関する留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 教育実習の授業担当における教室運営と授業の進め方について技術助言 ● 教育実習日誌及び学習指導案の作成方法 <p>(2)教育実習事後指導 教職課程小委員会並びに事務部教務課担当者により教育実習終了後の事後指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 教育実習日誌の確認点検 ● 教育実習の個別報告(学生からの5~10分程度の報告) ● 実習の状況報告(実習先・規模・担当科目・クラス担当等) ● 実習の反省点(成功例・失敗例・後輩への助言) ● 学習指導案の作成状況 ● 大学あるいは教務課に対する要望 ● その他の事項 2, 3年次の教職課程履修者へのアドバイス
授業期間を通して課される課題	

科目No.	910180T4	科目区分	教職
科目名	教育実習事前・事後指導	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	実習前準備及び実習中に相当の時間を要する。特に実習中は教育実習に専念することが求められる。		
テキスト・参考文献他	学習指導要領教科編，教師用教科指導書，教育実習日誌のほか適宜プリントを配布する。		
授業形態	教育実習をもって授業とする		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	—
レポート試験	0%	—
平常点評価	100%	「教育実習成績報告書」により総合的に評価。

オフィスアワー	柿沼 美紀： 比較発達心理学教室（B棟4階） kakinuma-miki#nvl.u.ac.jp （#を@に変えて使用すること） Eメールにて面接を受付または予約（月曜 12:00～13:00） 鴛崎 敏彦： 英語学教室（B棟4階） tokizaki#nvl.u.ac.jp （#を@に変えて使用すること） Eメールにて面接を受付または予約（月曜 12:00～12:40）
その他	

科目No.	910190T1	科目区分	教職
科目名	物理学Ⅱ（教職N）	単位数	2.0
学科	教職	学年	1
担当教員	八木 昌平		

授業のねらい	科学を理解するためには数学，物理学の理解は必ず必要である。 物理学では，数学と物理学の基礎を理解することを目的とする。 ここでは熱力学，波動を対象とし，数学の使い方と，物理学の概念の理解を目指す。
到達目標	1. 数学，物理学の基礎（熱力学，波動）を理解する。 2. 自然や社会の物と現象の理解と予測能力の向上ができる。 3. 抽象的思考能力の向上ができる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	高校の常識的な数学の理解の確認をしてから履修に臨むこと。 物理学Iが修得済みであること。
履修上の留意点	予習復習を必要とする。解らないときは逐次質問すること。
概要・スケジュール	第1回熱 第2回熱 第3回気体分子 第4回気体分子 第5回波 第6回波 第7回音波 第8回光波 第9回光波 第10回静電場 第11回電流と磁場 第12回電流と磁場 第13回直流回路 第14回交流回路 第15回原子核と放射線
授業期間を通して課される課題	ほぼ毎回につき課題を課すので，次回までに解いておくこと。

科目No.	910190T1	科目区分	教職
科目名	物理学Ⅱ (教職N)	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習として、次回の講義に関して理解に努めること。(60分) 復習として、講義に関し理解を深めること。(20分)		
テキスト・参考文献他	大学新入生のための物理入門 第2版, 廣岡 秀明, 共立出版 大学生のための基礎シリーズ 数学入門, 物理学入門, 東京化学同人		
授業形態	教室内での講義.		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	80	学期末に定期試験を実施する.
レポート試験	20	小テスト
平常点評価	0	なし

オフィスアワー	八木昌平 : 物理学教室 (D棟3階) shou*nv@u.ac.jp (@に*を変更する.) メールにて事前に予約すること (水曜日 12:30~13:30).
その他	

科目No.	910200T1	科目区分	教職
科目名	物理学実験（教職N）	単位数	1.0
学科	教職	学年	1
担当教員	八木 昌平		

授業のねらい	科学では物理的な技術や測定知識が重要になっている。基礎的な物理学に関する実験を行い、物理現象を観察し、物理量を測定し、法則を理解する。実験機器の使用法、データの取得と処理の方法、報告書の書き方などを修得し、問題解決能力のための素地を身に付ける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 数学、物理学の基礎を理解し、実験、測定の技術を習得できる。 2. 自然や社会の物と現象の理解と予測能力の向上ができる。 3. 抽象的思考能力の向上ができる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	<p>小中高の常識的な算数、数学の理解の確認をしてから履修に臨むこと。</p> <p>高校数学が修得済みであること。</p> <p>物理学を履修すること。</p>
履修上の留意点	予習を必要とする。解らないときは逐次質問すること。
概要・スケジュール	<p>第1回ガイダンス</p> <p>第2回測定</p> <p>第3回固体の比熱</p> <p>第4回表面張力</p> <p>第5回屈折</p> <p>第6回弦の定常波</p> <p>第7回半導体</p> <p>第8回等電位線</p> <p>第9回ヤング率</p> <p>第10回薄いレンズ</p> <p>第11回光の回折</p> <p>第12回ガラス薄膜の電位差</p> <p>第13回電流が磁場から受ける力</p> <p>第14回電気抵抗</p> <p>第15回熱電対</p>
授業期間を通して課される課題	ほぼ毎回につき課題を課すので、レポートに解いておくこと。

科目No.	910200T1	科目区分	教職
科目名	物理学実験 (教職N)	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習として、次回の実験に関して理解に努めること.		
テキスト・参考文献他	大学新生のための物理入門 第2版, 廣岡 秀明, 共立出版		
授業形態	実験室での実験.		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0	なし
レポート試験	80	次回の実験時にレポートを提出すること.
平常点評価	20	実習態度

オフィスアワー	八木昌平 : 物理学教室 (D棟3階) shou*nvlu.ac.jp (@に*を変更する.) メールにて事前に予約すること (水曜日12:30~13:30).
その他	

科目No.	910205T2	科目区分	教職
科目名	物理学実験（教職Z）	単位数	2.0
学科	教職	学年	2
担当教員	八木 昌平		

授業のねらい	科学では物理的な技術や測定知識が重要になっている。基礎的な物理学に関する実験を行い、物理現象を観察し、物理量を測定し、法則を理解する。実験機器の使用法、データの取得と処理の方法、報告書の書き方などを修得し、問題解決能力のための素地を身に付ける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 数学、物理学の基礎を理解し、実験、測定の技術を習得できる。 2. 自然や社会の物と現象の理解と予測能力の向上ができる。 3. 抽象的思考能力の向上ができる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	<p>小中高の常識的な算数、数学の理解の確認をしてから履修に臨むこと。</p> <p>高校数学が修得済みであること。</p> <p>物理学を履修すること。</p>
履修上の留意点	予習を必要とする。解らないときは逐次質問すること。
概要・スケジュール	<p>第1回ガイダンス</p> <p>第2回測定</p> <p>第3回固体の比熱</p> <p>第4回固体の比熱</p> <p>第5回表面張力</p> <p>第6回表面張力</p> <p>第7回屈折</p> <p>第8回屈折</p> <p>第9回弦の定常波</p> <p>第10回弦の定常波</p> <p>第12回半導体</p> <p>第13回半導体</p> <p>第14回等電位線</p> <p>第15回等電位線</p>
授業期間を通して課される課題	ほぼ毎回につき課題を課すので、レポートに解いておくこと。

科目No.	910205T2	科目区分	教職
科目名	物理学実験 (教職Z)	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習として、次回の実験に関して理解に努めること.		
テキスト・参考文献他	大学新入生のための物理入門 第2版, 廣岡 秀明, 共立出版		
授業形態	実験室での実験.		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0	なし
レポート試験	80	次回の実験時にレポートを提出すること.
平常点評価	20	実習態度.

オフィスアワー	八木昌平 : 物理学教室 (D棟3階) shou*nvlu.ac.jp (@に*を変更する.) メールにて事前に予約すること (水曜日12:30~13:30).
その他	

科目No.	910210T1	科目区分	教職
科目名	化学Ⅱ（教職N）	単位数	2.0
学科	教職	学年	1
担当教員	田崎 弘之		

授業のねらい	物理化学を中心に学ぶ。特に、熱力学に関しては大学ではじめて学ぶことになるが、化学は、物質とエネルギーの変化を叙述する学問であるため、必須の知識となる。
到達目標	化学の知識を定性的なものから定量的な理解できるようにする。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	特になし
履修上の留意点	化学実習（必修）、生体分子化学（必修）を履修する上で履修しておくことが望ましい。
概要・スケジュール	第1回 序論 第2回 原子の電子配置（量子化学） 第3回 原子の電子配置（量子化学） 第4回 化学結合（混成軌道・分子軌道） 第5回 化学結合（混成軌道・分子軌道） 第6回 物質の状態（気体の分子運動論） 第7回 物質の状態（状態図） 第8回 物質の状態（緩衝液） 第9回 物質の変化（化学熱力学） 第10回 物質の変化（化学熱力学） 第11回 物質の変化（化学熱力学） 第12回 物質の変化（化学平衡） 第13回 物質の変化（化学反応速度） 第14回 放射線化学 第15回 化学の応用と展開
授業期間を通して課される課題	毎回宿題を出す。

科目No.	910210T1	科目区分	教職
科目名	化学Ⅱ（教職N）	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習：教科書を読み、宿題で指定されたことを調べてくる。（40分） 復習：講義ノートの整理と配布資料を使って、宿題で課された問題を解いて授業内容を把握する。（60分）		
テキスト・参考文献他	理系のための基礎化学 増田芳男・澤田清編 化学同人		
授業形態	講義を中心とする。		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	60%	期末試験は、記述式と選択式を混合させた形で行う。
レポート試験	宿題 35%	記述内容を評価、提出物は返還しない。
平常点評価	出席点 5%	宿題の提出をもって出席とする。

オフィスアワー	田崎弘之 獣医学総合教育部門・獣医学総合教育分野 生体分子化学教室（D棟5階） 開講期の毎週金曜日13：00~14：00
その他	

科目No.	910230T1	科目区分	教職
科目名	生物学Ⅱ（教職N）	単位数	2.0
学科	教職	学年	1
担当教員	土田 修一		

授業のねらい	生物の基本単位である細胞に焦点をあて、細胞で営まれる生命活動を分子レベルで理解する。
到達目標	生命活動におけるエネルギーの流れを理解し説明できる。 細胞分裂を理解し説明できる。 遺伝情報の流れを理解し説明できる。 細胞膜、細胞骨格など細胞内構造物の構造と機能を理解し説明できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	「生物学」の内容の理解してから履修に臨むこと。
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第1回 土田 細胞生物学研究法 第2回 土田 生命活動とエネルギーⅠ 第3回 土田 生命活動とエネルギーⅡ 第4回 土田 葉緑体と光合成 第5回 土田 細胞周期と細胞分裂 第6回 土田 減数分裂 第7回 土田 DNAの構造と複製 第8回 土田 遺伝情報の流れⅠ 第9回 土田 遺伝情報の流れⅡ 第10回 土田 タンパク質の修飾と細胞内輸送 第11回 土田 細胞膜 第12回 土田 細胞骨格 第13回 土田 細胞の情報伝達 第14回 土田 組織の維持と更新 第15回 土田 まとめ
授業期間を通して課される課題	

科目No.	910230T1	科目区分	教職
科目名	生物学Ⅱ（教職N）	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	<p>次回の講義内容に関する事前配布資料を読むこと（30分）。 復習として、毎回の講義資料を再読する（60分）。</p>		
テキスト・参考文献他	<p>授業ごとにプリントを配布する。</p>		
授業形態	<p>教室内での講義</p>		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	80%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	10%	学期中にレポートを課することがある。
平常点評価	10%	出席状況を評価する。

オフィスアワー	<p>土田 修一：比較細胞生物学（D棟2階 tsuchida@nvlu.ac.jp （12：00～13：00））</p>
その他	

科目No.	910240T1	科目区分	教職
科目名	生物学実験（教職N）	単位数	1.0
学科	教職	学年	1
担当教員	土田 修一, 畠山 仁		

授業のねらい	ウシガエルの解剖では各臓器の形態の把握および解剖用語・生体機構の理解，そして解剖器具の取扱に慣れることを，顕微鏡観察では生命の最小単位である細胞，その集合体である組織の把握および理解，そして顕微鏡操作および標本作製（作成）に慣れることを目的とする。
到達目標	1. スケッチ描画法、実験レポート作成法を習得する。 2. ウシガエルの解剖が適切にできる。 3. 顕微鏡操作が適切にできる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	時間内に観察し、形態を描画およびレポートを作成する。
概要・スケジュール	第1回 名簿作成、オリエンテーション 蛙の解剖Ⅰ 外部形態・口腔 第2回 蛙の解剖Ⅱ 消化器系・呼吸器系・泌尿生殖器系 第3回 蛙の解剖Ⅲ 循環器系・神経系 第4回 蛙の解剖Ⅳ 筋肉系 第5回 顕微鏡・ミクロメーター使用法 細胞の構造・原形質流動 第6回 動物組織標本作製法Ⅰ 薄切・伸展・貼付 維管束—植物組織標本作製法 第7回 動物組織標本作製法Ⅱ 染色・封入 第8回 動物組織標本作製法Ⅲ 標本観察
授業期間を通して課される課題	プリント・スケッチ・レポート・見本のノート貼付 レポート見本の筆写

科目No.	910240T1	科目区分	教職
科目名	生物学実験（教職N）	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	プリント・スケッチ・レポート・見本のノート貼付（10分程度） レポート見本の筆写（50分程度） 前回の実習の確認（30分程度）		
テキスト・参考文献他	実習ごとにプリントを配布する。		
授業形態	実習形式		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	0%	定期試験は実施しない
レポート試験	80%	スケッチ・実験レポート
平常点評価	20%	出席、標本作製を総合的に評価する

オフィスアワー	畠山仁（代表）：比較細胞生物学教室（D棟2F）・木曜日13:00～14:00
その他	

科目No.	910250T2	科目区分	教職
科目名	地学I	単位数	2.0
学科	教職	学年	2
担当教員	市野 美夏		

授業のねらい	地学は「地球と宇宙」というきわめて広い範囲を取り扱っている。地学Iでは最も身近な宇宙である太陽系と惑星の誕生から、地球環境の形成と進化について学習する。地球は火星や金星などと同じ太陽系の一つの惑星であるが、豊かな水の存在と生命活動が他の惑星との違いを際立たせている。地球という惑星が46億年をかけて、どのように地球システムを作り上げてきたか、生命はどのように地球システムと関わっているかについて学習する。
到達目標	太陽系およびその一惑星である地球についての科学的基礎知識を習得し、地球システムの成り立ちを理解するとともに、地球との共生について考えることを目指す。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	<p>まず、地球を理解するために最も身近な宇宙である太陽系を取り上げる。次に、地球の構成、地球を駆動するエネルギーについて学習し、地球システムを理解する。地球は太陽エネルギーや潮汐などの外因エネルギーと地球内部の放射性核種の壊変に由来する内因エネルギーによって駆動されるシステムである。これらのエネルギーやその他の原因(小天体の衝突など)により惑星地球はダイナミックに進化・変動してきた。生物の絶滅や劇的な環境変動に関する最新の成果から、地球変動のメカニズムを知り、地球システムの変遷、資源や環境、地球の近未来についても考える。</p> <p>第1回：ガイダンス 第2回：太陽系 第3回：太陽系の誕生 第4回：地球型惑星と木星型惑星 第5回：地球の誕生 第6回：地球と月 第7回：生命の誕生 第8回：地球システムの安定性 第9回：地球のエネルギー収支 第10回：全球凍結と温室効果 第11回：生物上陸とオゾン層形成 第12回：プレュームテクトニクス 第13回：大気環境の変化 第14回：大量絶滅 第15回：まとめ</p>
授業期間を通して課される課題	

科目No.	910250T2	科目区分	教職
科目名	地学I	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	期末テストのほか、小テストあり。週30分程度の復習が望ましい。また、数十分から数時間程度の課題が1回から2回ある。		
テキスト・参考文献他			
授業形態	基本は講義形式。映像等も利用。演習、小テストあり。		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	40	期末試験
レポート試験	30	小テスト・演習問題・レポート
平常点評価	30	出席および講義への積極性

オフィスアワー	講義前後15分
その他	

科目No.	910260T2	科目区分	教職
科目名	地学II	単位数	2.0
学科	教職	学年	2
担当教員	市野 美夏		

授業のねらい	<p>地学は「地球と宇宙」というきわめて広い範囲を取り扱っている。地学Ⅱでは、地学Ⅰに引き続き、宇宙、大気、海洋、地球内部、生物の進化と地球との関わりなど、私たちを取り巻くさまざまな世界について地球科学的な視点で学習する。近年、環境の悪化が人類だけではなく生物全体に及ぼす影響が心配され、大きな社会問題となっている。2013年、2014年には気候変動に関する政府間パネルの第5次報告書が出され、2015年にはCOP21も開催される。気象災害の報道と共に地球温暖化をはじめ、地球環境問題に関する関心も非常に高くなってきている。人類誕生以降の地球環境の変動を学習することで、人間と地球システムの関わりについて考える。</p>
到達目標	<p>グローバルな視点から地球の自然環境の仕組みを学習し、地球システムを理解するとともに、各々が地球環境問題について地球科学的な視点で考察することを目指す。</p>
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	<p>地球をひとつのシステムと考え、宇宙スケールから人間スケールまで、自然界の構造とその変化に関わる全体像について学び、地球システムとその進化について理解する。特に地学Ⅱでは、人類誕生以降の地球環境の変動を学習することで、人間と地球システムの関わりについて考察する。</p> <p>第1回：ガイダンス 第2回：新生代の気候変動 第3回：大陸大移動 第4回：メタンハイドレード 第5回：ヒマラヤ形成 第6回：大気組成と鉛直構造 第7回：大気循環 第8回：第四紀の気候変動 第9回：ミランコビッチサイクル 第10回：最終氷河期気候変動 第11回：海洋循環 第12回：過去一万年間の気候変動 第13回：中世温暖期と小氷期 第14回：太陽活動と気候変動 第15回：まとめ</p>
授業期間を通して課される課題	

科目No.	910260T2	科目区分	教職
科目名	地学II	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	期末テストのほか、小テストあり。週30分程度の復習が望ましい。また、数十分から数時間程度の課題が1回から2回ある。		
テキスト・参考文献他			
授業形態	基本は講義形式。映像等も利用。演習、小テストあり。		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	40	期末試験
レポート試験	30	小テスト・演習問題・レポート
平常点評価	30	出席および講義への積極性

オフィスアワー	講義前後15分
その他	

科目No.	910270T2	科目区分	教職
科目名	地学実験	単位数	2.0
学科	教職	学年	2
担当教員	森 美文		

授業のねらい	地球は太陽系の誕生から人類が繁栄する今日まで、ずっと変わらぬダイナミックな活動を続けている。 地震や火山活動などの自然災害が多い日本列島は4つのプレートがぶつかり合う複雑な場所である。 野外実習によって、これらの大地の動きの証を知り、地球への知識や興味を深めることを目的とする。
到達目標	1、地球の生き物の歴史が理解できる 2、身近な地形や地層の成り方を説明できるようになる 3、プレートテクトニクスと地震や火山活動との関連を説明できるようになる
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	地学について、高校教科書レベルの知識を持っていることが望ましい
履修上の留意点	野外フィールドでの安全に配慮する必要性から、事前に服装や持ち物について指示をする
概要・スケジュール	1、地球と惑星の成因を学ぶ 2、プレートテクトニクスと地震の関係を学ぶ 3、火山の成り立ちを学ぶ 4、岩礁海岸やそこに見られるスランプ構造などを学ぶ 5、地殻変動による逆転地層や、火山噴火による火山豆石などを学ぶ 6、火山地形と泥流堆積物を学ぶ 7、火山と植生について学ぶ 8、地球の歴史と太陽系について学ぶ 9、望遠鏡、赤道儀の扱い方法を学ぶ 10、星座と惑星について学ぶ 11、パホイホイとアア溶岩を学ぶ 12、溶岩上の植生と溶岩洞窟を学ぶ 13、プレート境の構造線の地形を学ぶ 14、化石の採掘をとおして古生物を学ぶ 15、地球と生き物のまとめ
授業期間を通して課される課題	授業終了時にレポートを課す

科目No.	910270T2	科目区分	教職
科目名	地学実験	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	実習のため必要なし		
テキスト・参考文献他	授業時間中に指示する		
授業形態	主として野外実習		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	0%	特になし
レポート試験	50%	課題レポートを指定期日までに提出
平常点評価	50%	受講態度、意欲などを評価する

オフィスアワー	メールアドレス：kyomu×nvl.u.ac.jp（×を@に変えて使用すること）、実施方法：教務・学生課を通して調整する
その他	

科目No.	910300T2	科目区分	教職
科目名	日本国憲法	単位数	2.0
学科	教職	学年	2
担当教員	井上 知樹		

授業のねらい	近代立憲主義憲法の来歴、その保障する価値、それを担保する仕組、及び、現代的課題 上記の観点からする日本国憲法の学習を通じて、歴史感覚の習得、時代感覚の練磨、個人尊重の価値観 の練成、人権感覚の涵養、批判的主体的個人の確立、公共志向的個人の陶冶を図りたい。
到達目標	講義と講義内容に関連する課題を通じて、文章の読解力と表現力の鍛錬をも企図している。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	高校までの世界史における市民革命期の知識、政治経済における日本国憲法の知識、日本史における戦前・戦後期の知識、倫理における近代哲学の知識、これらの最低限の知識が前提として要求される。
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第1回 ガイダンス・オリエンテーション（大学における勉強とは？ 本講義の方針及びその理由） 第2回 人間とは何か？ 自由とは何か？ 権利とは何か？ 第3回 憲法12条・13条・14条で確認 第4回 世界の法思想家で確認 第5回 自分のことが自分で決められない（自由からの逃走・権利の上に眠る者） 第6回 人身の自由 第7回 精神的自由権 第8回 経済的自由権 第9回 公共の福祉論 第10回 憲法史・革命史 第11回 明治憲法から日本国憲法へ 第12回 権力の民主化（民主主義） 第13回 議院内閣制 第14回 権力の分立（立憲主義） 第15回 総括
授業期間を通して課される課題	適宜授業期間中に課題を提出する。そこにおける諸文献の講読及び問題への論述にはそれなりの時間を要することになるので、一夜漬けでは不可能である。文献は平易なものから難解なものまで種々多数取り揃えているので、各自多忙な中で予定を組んで着実に実行されることが求められる。

科目No.	910300T2	科目区分	教職
科目名	日本国憲法	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	教科書を指定しない代わりに、3週間から1ヶ月の間隔で、講義内容に関連する諸文献を印刷し配布する。講読の上、あわせて配布する問題を論ずる形式のレポートを課す。		
テキスト・参考文献他	特に指定しない。		
授業形態	各回一話完結ではなく、一定の幅で連続性を持った講義なので、自発的な怠学により欠席する学生は、講義内容について行けないであろうから、宿題を提出したからといって必ずしも及第するとは限らない。自業自得・身から出た錆という諺を想起せよ。必要やむを得ない用事で欠席せざるを得ない学生は、大学所定の届け出用紙でその旨届け出れば、考慮するが、その分の板書ノートは各自補充することを要望する。また、半期ではあるが、その間に課題として提出する文献の講読による読書量は相当なものになると思われる。読書に耐え得ない者には本講座の受講を勧めない。読書に親しみたい諸君の受講を楽しみにしている。		
成績評価基準			
種別	評価割合 (%)	評価方法	
定期試験	70%	小論文形式の期末試験を実施する予定なので、講義内容の理解力、問題分析力、論理的文章表現力、熟語などの誤字の有無、以上の観点から加減宜しきを得た評価をする。	
レポート試験	0%	なし	
平常点評価	期中数回に亘るレポート提出につき、30%	配布した文献の読解力、講義内容の理解力、論理的文章表現能力、熟語などの誤字の有無、以上の観点から加減宜しきを得た評価をする。	
オフィスアワー	講義の前後、講師控え室又は教場にて。		
その他			

科目No.	910310T2	科目区分	教職
科目名	コンピュータ概論演習（教職V）	単位数	1.0
学科	教職	学年	2
担当教員	山本 和義		

授業のねらい	この授業では「論理操作でExcelを簡単に操る」ことを目的とします。情報の応用スキルとして、直感ではなく論理操作を付け加えることにより、表やグラフを短時間で作成し、それを標準的な方法で印刷することができるようにしていきます。
到達目標	論理的な操作方法を身に着けることにより、表計算ソフトであるExcelを簡単に操ること。また、標準的な印刷が短時間でできるようになることを到達目標とします。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	1年次開講科目の「コンピュータ概論」の単位が取得されていることが望ましい。
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・USBメモリ等の保存メディアを毎回持参すること。 ・実習課題等は授業時に伝達する。
概要・スケジュール	第1回 ガイダンス 第2回 ネットワークデータの管理方法 第3回 表計算ソフトウェア(基本計算) 第4回 表計算ソフトウェア(印刷と表の拡張) 第5回 表計算ソフトウェア(グラフの基本) 第6回 表計算ソフトウェア(応用計算) 第7回 表計算ソフトウェア(度数分布とそのグラフ) 第8回 表計算ソフトウェア(応用的な印刷) 第9回 表計算ソフトウェア(散布図と近似直線) 第10回 表計算ソフトウェア(テキスト文書との統合) 第11回 表計算ソフトウェア(関数で表されたグラフ) 第12回 表計算ソフトウェア(まとめ) 第13回 プレゼンテーション(1) 第14回 プレゼンテーション(2) 第15回 総まとめ
授業期間を通して課される課題	全体で9回程度の課題の提出がある。

科目No.	910310T2	科目区分	教職
科目名	コンピュータ概論演習（教職V）	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	提出課題の作成・調整(予習45分, 復習45分)		
テキスト・参考文献他	特に指定しない		
授業形態	パーソナルコンピュータを用いた実習を主体とし、適宜補足として講義を行う。		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	0%	定期試験は行わない
レポート試験	70%	授業時に提示される課題の提出
平常点評価	30%	出席(欠席の際は提出された欠席届により評価がなされる)

オフィスアワー	メールアドレス: kyomu×nvl.u.ac.jp (×を@に変えて使用すること), 実施方法: 教務・学生課を通して調整する
その他	

科目No.	920080U2	科目区分	学芸員
科目名	生涯学習概論	単位数	2.0
学科	学芸員	学年	2
担当教員	中 島 洋		

授業のねらい	人生80年時代に於いて、「生涯学習社会」の一員として学び続けることの意義を深く理解し、個々のライフワークにつながるようなテーマを探し、その探究方法の基礎を学ぶこともねらいとする。
到達目標	少子高齢社会の問題点を理解すること、日本人の生き方や生活観を理解すること、ボランティア活動の意義を理解すること、自分にとって適した学び方の方法を理解することを目標とする。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	新聞記事、雑誌記事、マスコミ報道などに興味関心をもち、疑問に思うことや深く調べてみたいことを自分なりに探究する。生涯学習関連の基礎テキストを通読しておく。
履修上の留意点	講義を聴くだけでなく、授業中に行う演習を積極的に取り組むこと。常に疑問をもち、自主的に調べるようにすること。
概要・スケジュール	第1回 生涯学習の背景、講義の概要説明 第2回 社会変化と生涯学習 第3回 超高齢社会と生涯学習 第4回 ライフサイクルと生涯学習 第5回 生涯現役 第6回 生きがい論（生きがいの哲学、神谷美恵子論） 第7回 大人にとっての学び 第8回 生涯学習の内容と方法 第9回 生涯学習施設の拡張 第10回 公民館、図書館、博物館 第11回 民間生涯学習施設 第12回 ボランティア活動・NPO活動 第13回 長寿社会・福祉社会の創造と今後の生涯学習 第14回 死生学と生涯学習、総まとめ（試験対策） 第15回 期末試験
授業期間を通して課される課題	原則として、毎回、リアクションペーパーを書く。

科目No.	920080U2	科目区分	学芸員
科目名	生涯学習概論	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	講義テーマに関し、興味がある記事を事前に調べる（20分間）。 復習として、講義内容を深く理解するために、授業で取り上げられる内容のなかのキーワード3つについて各自で主体的に調べ直す（60分間）。		
テキスト・参考文献他	香川正弘・鈴木真理・佐々木英和『よくわかる生涯学習』ミネルヴァ書房、2008年。		
授業形態	講義形式（ただし、適宜、少人数によるグループ・ディスカッションを行う）		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	70%	学期末に定期試験を行う
レポート試験	特になし	期末レポート課題を課さない
平常点評価	30%	出席、リアクションペーパー、演習への参加態度

オフィスアワー	基本的に、土曜日の午前中
その他	

科目No.	920090U2	科目区分	学芸員
科目名	博物館概論	単位数	2.0
学科	学芸員	学年	2
担当教員	田代 英俊		

授業のねらい	博物館は、歴史博物館、美術館、動物園など様々な館種があり、館種により、館の目的、社会的役割、教育普及活動が大きく異なる。そこで本授業では、館種を越えて学芸員が理解しておくべき法規等の総論と、館種により異なる展示資料の扱い等各論の基礎を両面から学ぶ。
到達目標	生涯学習社会における博物館の存在意義、社会的役割を把握した上で、博物館活動の基礎をなす資料の「収集」「保存」「調査・研究」「展示・教育普及」を理解することができる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	授業中の質疑、発表など、主体的に授業に参加すること。
概要・スケジュール	<p>第1回博物館の定義、社会における博物館の役割</p> <p>第2回学芸員の役割</p> <p>第3回博物館の機能による分類</p> <p>第4回博物館に関連する法規 1</p> <p>第5回博物館に関連する法規 2</p> <p>第6回博物館の歴史 1</p> <p>第7回博物館の歴史 2</p> <p>第8回博物館資料の収集</p> <p>第9回資料の保存、ドキュメンテーション</p> <p>第10回資料の調査、研究</p> <p>第11回資料の展示・教育普及活動</p> <p>第12回評価活動</p> <p>第13回企画展の開発 ケーススタディー</p> <p>第14回博物館とホスピタリティー</p> <p>第15回博物館の生涯学習に果たす役割、まとめ</p>
授業期間を通して課される課題	既存の博物館の視察見学に関するレポートを前期の前半と後半に各1回、法規に関する小テスト前期の中期に1回予定

科目No.	920090U2	科目区分	学芸員
科目名	博物館概論	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習（90分）、復習（90分）、		
テキスト・参考文献他	随時配布		
授業形態	講義・グループ討議・演習 博物館見学を実施予定です（詳細は授業にて説明します）。		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	0	定期試験は実施せず、レポート、平常点により評価する。
レポート試験	60	課題レポートにより評価する。
平常点評価	40	出席、質疑応答等の授業態度、小テストにより評価する。

オフィスアワー	メールアドレス：m78u7tashiro×outlook.jp（×を@に変更して使用すること） 実施方法：教務、学生課を通して調整する
その他	様々な館種の博物館を見学し、各館で来館者が何を求め、何を感じ、何を学んでいるのかを観察してください。これが学芸員とはどうあるべきかを理解する糸口となります。

科目No.	920100U3	科目区分	学芸員
科目名	博物館経営論	単位数	2.0
学科	学芸員	学年	3
担当教員	田代 英俊		
授業のねらい	博物館経営の在り方を、ピーター・ドラッカーの組織マネジメントの考え方を軸に論ずる。具体的には、博物館の法人としての成り立ち、金銭の運用、組織の構造、運営、評価、改善などを学び、博物館をいかに設立・維持していくかを理解することを目指す。		
到達目標	博物館経営（ミュージアムマネジメント）の在り方、マーケティング、イノベーション等の経営学の手法について解説し、博物館経営はもとより、一般的な企業経営の基礎を学ぶことができる。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点	授業中の質疑、発表など、主体的に授業に参加すること。		
概要・スケジュール	第1回オリエンテーション、組織経営におけるマネジメントの在り方 第2回マネジメントの定義 第3回企業マネジメントとミュージアムマネジメントの比較 第4回博物館経営の構造 第5回博物館の経営資源、組織の在り方 第6回博物館の使命・計画 第7回博物館の施設・設備 第8回博物館の組織と職員 第9回博物館の広報・マーケティング 第10回博物館のイノベーション 第11回博物館の危機管理、博物館倫理（行動規範） 第12回ミュージアムショップの活用 第13回他の教育機関（学校、社会教育施設、研究所等）との連携、地域社会と博物館 第14回課題発表「私の考える理想の博物館 建設・運営計画」 第15回まとめ：博物館経営の歴史と未来		
授業期間を通して課される課題	既存の博物館の視察見学に関するレポートを前期の前半と後半に各1回、組織構造に関する小テストを前期の中盤に1回予定		

科目No.	920100U3	科目区分	学芸員
科目名	博物館経営論	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習（90分）、復習（90分）、		
テキスト・参考文献他	随時配布		
授業形態	講義・グループ討議・演習 博物館見学を実施予定です（詳細は授業にて説明します）。		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	0	定期試験は実施せず、レポート、平常点により評価する。
レポート試験	60	課題レポートにより評価する。
平常点評価	40	出席、質疑応答等の授業態度、小テストにより評価する。

オフィスアワー	メールアドレス：m78u7tashiro×outlook.jp（×を@に変更して使用すること） 実施方法：教務、学生課を通して調整する
その他	様々な館種の博物館を見学し、各館で来館者が何を求め、何を感じ、何を学んでいるのかを観察してください。これが博物館経営とはどうあるべきかを理解する糸口となります。

科目No.	920110U2	科目区分	学芸員
科目名	博物館資料論	単位数	2.0
学科	学芸員	学年	2
担当教員	箕輪 多津男		

授業のねらい	博物館における諸活動を、根幹から支える最も重要な要素と言える「博物館資料」について、基礎的な内容を中心に、広い視野から、必要と考えられる知見を一通り把握してもらうことを目的とする。同時に、自然科学系博物館等に所蔵されている資料の価値について学ぶ。
到達目標	博物館資料の「収集」、「制作」、「分類」、「保存」、「展示」さらには「研究」、「教育普及」に至る一連の事項について、基礎的な知識を習得し、同時に、本質的な情報提供により、それぞれ具体的なイメージをもって認識を深めることができるようにしていく。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	博物館資料を取り上げる関係上、生物学のほか、できれば地球科学や物理学についての基礎的知識があることが望ましい。また、博物館関連の参考図書などにも、順次目を通しておくことが大切である。
履修上の留意点	博物館資料はあらゆる分野にまたがるものであるため、広い視野と関心をもって、見聞を深める努力が求められる。また、学芸員という目標に向け、何より積極的な参加態度が望まれる。
概要・スケジュール	第1回 博物館資料のイメージ 第2回 博物館資料の意義 第3回 自然科学系博物館の資料① 第4回 自然科学系博物館の資料② 第5回 資料の収集・制作と整理 第6回 資料の分類・管理と保存 第7回 現場実習①（収集・保存・普及部門等） 第8回 現場実習②（収集・保存・普及部門等） 第9回 資料の展示と情報提供 第10回 資料の展示や普及に向けた視点の検討 第11回 現場実習③（研究・展示部門等） 第12回 現場実習④（研究・展示部門等） 第13回 資料を活用した調査研究と教育普及 第14回 資料に関わるワークショップ 第15回 全体のまとめ
授業期間を通して課される課題	中間、及び学期末に、現場実習（現場見学）に関するレポートを課す。また、できる限り様々な博物館を実際に訪れるよう促す。

科目No.	920110U2	科目区分	学芸員
科目名	博物館資料論	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から、様々な博物館に足を運び、現場における見聞を広めていくよう努力する。(60分) ・授業等で取上げた内容に関して、その都度復習を行い、認識を深めておくようにする。(60分) 		
テキスト・参考文献他	その都度、資料(プリント)を配布する。また、実習用具については、別途準備する。		
授業形態	教室内での講義のほか、現場実習(あるいは現場見学)や演習等を実施する。		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	0%	定期試験は実施しない。
レポート試験	90%	中間及び学期末の2回のレポートにより総合評価する。
平常点評価	10%	規定の出席率をクリアすること。理由なく遅刻しないこと。

オフィスアワー	メールアドレス : tm13249oz@yahoo.co.jp 実施方法 : 教務・学生課を通して調整する
その他	

科目No.	920120U3	科目区分	学芸員
科目名	博物館資料保存論	単位数	2.0
学科	学芸員	学年	3
担当教員	奥田 環		

授業のねらい	博物館における資料の保存と、展示環境・収蔵環境について学ぶ。資料の保存方法を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得して、博物館資料保存に関する基礎的能力を養う。
到達目標	動水植物園の資料保全（育成を含む）に関連して、自然環境の保護と博物館の果たす役割や、種の保存や環境教育における動物園の取り組みなどを学び、博物館活動と資料保存の関わりについて具体的に理解する。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第1回 博物館における資料保存の意義 第2回 動水植物園における資料保存 第3回 日本の動物園の取り組み 第4回 資料の状態調査と現状把握 第5回 資料の修復・修理 第6回 資料の梱包と輸送 第7回 資料の収蔵と展示 第8回 資料の保存環境と劣化要因 第9回 生物被害とIPM（総合的有害生物管理） 第10回 災害の防止と対策 第11回 資料の伝統的保存方法 第12回 地域資源の保存と活用 —エコミュージアム 第13回 文化財の保存と活用 第14回 自然環境の保護と博物館の役割 第15回 博物館資料保存の課題
授業期間を通して課される課題	

科目No.	920120U3	科目区分	学芸員
科目名	博物館資料保存論	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	なるべく多くの博物館を見学することが望ましい。		
テキスト・参考文献他	授業時間中に指示する。		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	80%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	0%	-
平常点評価	20%	出席、授業態度等を総合的に評価する。

オフィスアワー	メールアドレス：kyomu×nvl.u.ac.jp（×を@に変えて使用すること） 実施方法：教務・学生課を通して調整する。
その他	

科目No.	920130U3	科目区分	学芸員
科目名	博物館展示論	単位数	2.0
学科	学芸員	学年	3
担当教員	草刈 清人		

授業のねらい	展示の歴史、空間の情報メディアである展示の特性、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論及び方法の知識・技術を習得し、学芸員や博物館に関係する職業人として博物館の展示を企画推進するための基礎的能力を養う。
到達目標	一般の利用者が最も活用する博物館の機能は展示である。この博物館展示の基礎知識と、展示を企画推進するための基礎的能力を身につけることを目標とする。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	博物館概論 を終了している事が望ましい
履修上の留意点	博物館教育論と関連する内容なので、同時に履修する事が望ましい
概要・スケジュール	<p>博物館展示の具体的な事例を中心に展示の計画、制作、利用について講義を行う。内3回程は博物館等、展示の現場に出かけて学びたいと考えている。また、グループで展示企画にチャレンジする。</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 博物館展示の意義-1<展示は情報メディアだ> ☆展示にチャレンジ(グループワーク)*毎回実施 第3回 博物館展示の意義-2<博物館展示の歴史> 第4回 博物館展示の実際-1<展示プロセスと人> 第5回 博物館展示の実際-2<博物館の展示を作る> 第6回 博物館展示の実際-3<展示の現場で学ぶ> 第7回 博物館展示の実際-4<展示の現場で学ぶ> 第8回 展示のコンポーネント -1<建築と展示> 第9回 展示のコンポーネント -2<展示ケース他> 第10回 展示のコンポーネント -3<ジオラマ他> 第11回 展示のコンポーネント -4<実演他> 第12回 展示の解説活動 第13回 プレゼンテーション -1 ☆グループ毎に展示計画を発表 第14回 プレゼンテーション -2 第15回 まとめ<展示が中心の博物館に未来はあるか?></p>
授業期間を通して課される課題	グループで展示計画を立案。授業とテキストの理解確認の小テストを第12回ごろに実施。課題図書等のレポートを指定時期に提出。

科目No.	920130U3	科目区分	学芸員
科目名	博物館展示論	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	指定テキストは必ず入手し、読み、授業に持ってくること。 授業で紹介する参考文献を読むこと。複数の博物館の展示を観ること。 このために授業の2倍以上の時間をかけること。		
テキスト・参考文献他	指定テキスト*博物館教育論と共通 「展示論～博物館の展示をつくる～」企画・編集 日本展示学会 2010 雄山閣 2600円		
授業形態	教室での講義、グループワーク。 博物館展示の現場での学習。		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	0%	実施しない
レポート試験	30%	提出した展示計画を評価
平常点評価	70%	出席30%、展示計画とプレゼンテーション20%、小テスト20%

オフィスアワー	kyomu×nv u.ac.jp (×を@に変えて使用すること) 実施方法：教務学生課を通して調整する
その他	

科目No.	920140U2	科目区分	学芸員
科目名	博物館教育論	単位数	2.0
学科	学芸員	学年	2
担当教員	草刈 清人		

授業のねらい	博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館の教育機能に関する基礎的能力を養う。
到達目標	博物館教育の中核は「展示室における学び」と博物館に蓄積した「資料、情報を活用した学び」である。博物館教育に関する基礎知識と、「展示室における学び」を開発、推進するための基礎的能力を身につけることを目標とする。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	博物館概論 を終了している事が望ましい
履修上の留意点	博物館展示論と関連する内容なので、同時に履修する事が望ましい
概要・スケジュール	<p>展示室の学びを中心に、具体的な事例を踏まえて、博物館教育の基本、教育普及プログラムの開発、実施、利用について講義を行う。内3回程度は博物館教育の中心舞台である展示室に行って学びたいと考えている。また、グループで教育プログラムの開発にチャレンジする。</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 学びの意義<博物館は社会「教育」施設なのだ> ☆教育プログラム開発にチャレンジ(グループワーク)*毎回実施 第3回 博物館教育の意義と理念-1<博物館における学びの特性> 第4回 博物館教育の意義と理念-2<生涯教育と博物館> 第5回 博物館教育の実際-1<博物館教育活動の企画と実施> 第6回 博物館教育の実際-2<博物館の現場で学ぶ> 第7回 博物館教育の実際-3<博物館の現場で学ぶ> 第8回 博物館の利用と学び-1<博物館教育と博物館体験> 第9回 博物館の利用と学び-2<教育の場としての展示> 第10回 博物館の利用と学び-3<学校と博物館教育の連携> 第11回 博物館の利用と学び-3<多様な利用者と博物館教育> 第12回 博物館の利用と学び-4<博物館資料と博物館教育> 第13回 プレゼンテーション -1 ☆グループ毎に開発した教育プログラムを発表 第14回 プレゼンテーション -2 第15回 まとめ<博物館は社会「教育」施設だけなのか?></p>
授業期間を通して課される課題	グループで展示と関連した教育プログラムを立案。授業とテキストの理解確認の小テストを第12回ごろに実施。課題図書等のレポートを指定時期に提出。

科目No.	920140U2	科目区分	学芸員
科目名	博物館教育論	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	指定テキストは必ず入手し、読み、授業に持ってくること。 授業で紹介する参考文献を読むこと。複数の博物館の教育活動、展示を観ること。 このために授業の2倍以上の時間をかけること。		
テキスト・参考文献他	指定テキスト*博物館展示論と共通 「展示論～博物館の展示をつくる～」企画・編集 日本展示学会 2010 雄山閣 2600円		
授業形態	教室での講義、グループワーク。 博物館の現場での学習。		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	0%	実施しない
レポート試験	30%	提出した展示計画を評価
平常点評価	70%	出席30% 教育プログラムとプレゼンテーション20% 小テスト20%

オフィスアワー	kyomu@nv u.ac.jp (×を@に変えて使用すること) 実施方法：教務学生課を通して調整する
その他	

科目No.	920150U3	科目区分	学芸員
科目名	博物館情報・メディア論	単位数	2.0
学科	学芸員	学年	3
担当教員	時田 昇臣, 小林 秀明		

授業のねらい	博物館における情報の意義と活用方法および情報発信の取組みについて理解し、博物館情報の提供と活用ができる。																																													
到達目標	(1) 博物館における情報・メディアの意義を理解できる。 (2) 博物館の情報・メディアの理論を理解できる。 (3) 博物館における情報を管理し、発信できる。 (4) 博物館と知的財産について説明できる。																																													
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	基本的なコンピュータリテラシーを身に付けておく。また、その努力を惜しまないこと。																																													
履修上の留意点	前回の講義内容を講義ノートや参考テキストを参照して整理し、理解しておくこと。																																													
概要・スケジュール	<p>前半（第1回目から第8回目）の講義は学外講師（小林秀明非常勤講師）が担当する。 後半（第9回目から第15回目）の講義は時田昇臣が担当する。</p> <table border="0"> <tr><td>第1回目</td><td>小林秀明</td><td>博物館における情報・メディアの意義（情報メディア技術）</td></tr> <tr><td>第2回目</td><td>小林秀明</td><td>メディアとしての博物館教育（視聴覚メディアの理論と歴史）</td></tr> <tr><td>第3回目</td><td>小林秀明</td><td>博物館におけるデジタルメディア（情報教育の意義と重要性）</td></tr> <tr><td>第4回目</td><td>小林秀明</td><td>博物館情報メディアリテラシーと学習理論</td></tr> <tr><td>第5回目</td><td>小林秀明</td><td>博物館における映像理論（CG・VFX）</td></tr> <tr><td>第6回目</td><td>小林秀明</td><td>情報メディアと展示技術（VR・AR・メタバース）</td></tr> <tr><td>第7回目</td><td>小林秀明</td><td>メディアの活用（映像制作演習）</td></tr> <tr><td>第8回目</td><td>小林秀明</td><td>メディアの未来（メディア活用能力）</td></tr> <tr><td>第9回目</td><td>時田昇臣</td><td>世界とつなぐ博物館</td></tr> <tr><td>第10回目</td><td>時田昇臣</td><td>デジタルアーカイブの構築と課題</td></tr> <tr><td>第11回目</td><td>時田昇臣</td><td>メディアによるユニバーサル手法</td></tr> <tr><td>第12回目</td><td>時田昇臣</td><td>情報とメディアの法的問題</td></tr> <tr><td>第13回目</td><td>時田昇臣</td><td>地域と連携した博物館</td></tr> <tr><td>第14回目</td><td>時田昇臣</td><td>作って発信あなたのメディア</td></tr> <tr><td>第15回目</td><td>時田昇臣</td><td>成果発表</td></tr> </table> <p>（平成27年度においては、本学に博物館施設が設置される見込みであるため、博物館実習と一部連携した授業形態となる場合があります。）</p>	第1回目	小林秀明	博物館における情報・メディアの意義（情報メディア技術）	第2回目	小林秀明	メディアとしての博物館教育（視聴覚メディアの理論と歴史）	第3回目	小林秀明	博物館におけるデジタルメディア（情報教育の意義と重要性）	第4回目	小林秀明	博物館情報メディアリテラシーと学習理論	第5回目	小林秀明	博物館における映像理論（CG・VFX）	第6回目	小林秀明	情報メディアと展示技術（VR・AR・メタバース）	第7回目	小林秀明	メディアの活用（映像制作演習）	第8回目	小林秀明	メディアの未来（メディア活用能力）	第9回目	時田昇臣	世界とつなぐ博物館	第10回目	時田昇臣	デジタルアーカイブの構築と課題	第11回目	時田昇臣	メディアによるユニバーサル手法	第12回目	時田昇臣	情報とメディアの法的問題	第13回目	時田昇臣	地域と連携した博物館	第14回目	時田昇臣	作って発信あなたのメディア	第15回目	時田昇臣	成果発表
第1回目	小林秀明	博物館における情報・メディアの意義（情報メディア技術）																																												
第2回目	小林秀明	メディアとしての博物館教育（視聴覚メディアの理論と歴史）																																												
第3回目	小林秀明	博物館におけるデジタルメディア（情報教育の意義と重要性）																																												
第4回目	小林秀明	博物館情報メディアリテラシーと学習理論																																												
第5回目	小林秀明	博物館における映像理論（CG・VFX）																																												
第6回目	小林秀明	情報メディアと展示技術（VR・AR・メタバース）																																												
第7回目	小林秀明	メディアの活用（映像制作演習）																																												
第8回目	小林秀明	メディアの未来（メディア活用能力）																																												
第9回目	時田昇臣	世界とつなぐ博物館																																												
第10回目	時田昇臣	デジタルアーカイブの構築と課題																																												
第11回目	時田昇臣	メディアによるユニバーサル手法																																												
第12回目	時田昇臣	情報とメディアの法的問題																																												
第13回目	時田昇臣	地域と連携した博物館																																												
第14回目	時田昇臣	作って発信あなたのメディア																																												
第15回目	時田昇臣	成果発表																																												
授業期間を通して課される課題	前回の講義内容を質問することがあるので、内容を整理して理解しておくこと。																																													

科目No.	920150U3	科目区分	学芸員
科目名	博物館情報・メディア論	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	前回の講義内容について講義ノートや参考テキストを参照して復習する（90分）。当該講義の内容について、参考テキストを読んで予習する（90分）。		
テキスト・参考文献他	博物館情報・メディア論（放送大学教材）、博物館情報・メディア論（日本教育メディア学会編集）、博物館実習マニュアル（全国大学博物館学講座協議会西日本部会編）		
授業形態	講義前半は、PC教室で演習を含めた講義となる。		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	0%	定期試験は実施しない。
レポート試験	80%	課題レポート（2題）により評価する。
平常点評価	20%	出席回数。質問への応答。予習復習の状況。受講態度。

オフィスアワー	時田昇臣（担当教員）： 動物栄養学教室、（E棟5階） メールアドレス：（×を@に変えて使用すること） 後期＝毎週金曜日正午から午後1時まで。メールでの対応も可。 なお、学外講師への対応は時田が代理します。
その他	

科目No.	920160U3	科目区分	学芸員
科目名	博物館実習	単位数	3.0
学科	学芸員	学年	3
担当教員	梶ヶ谷 博, 時田 昇臣		

授業のねらい	本実習は学内と学外施設での実習に大別される。学内では事前指導として博物館施設の予備知識を学習し、事後指導として討議を中心としながら整理をする。学外では各自、博物館施設において実務体験し博物館業務を理解する。
到達目標	1. 学芸員として現場での実務の基本姿勢を身につける。 2. 展示や解説、標本の取り扱いなどの基本的技術を習得する。 3. 博物館のもつ社会的な課題を理解する。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	学芸員課程における指定科目
履修上の留意点	実習施設における実習生募集要項は施設ごとに異なるので必ず事前に確認しておく。 学内における事前事後の指導を2単位受講（必修）すること。
概要・スケジュール	実習施設によって内容は異なる。 学内実習については対象者別に説明会を開催する。 学内実習は概ね10日間程度の集中実習とする。 施設の見学実習も含まれる。
授業期間を通して課される課題	全期間終了後に終了レポートを課す。

科目No.	920160U3	科目区分	学芸員
科目名	博物館実習	単位数	3.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	必要に応じて実習内容に関連する事項を参考書やインターネットを通じて学習する。		
テキスト・参考文献他			
授業形態	教室での講義、実習室での実技、実習施設での実務実習		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	実施しない。
レポート試験	50%	終了レポートおよび実習先での評価を合わせて評価する。
平常点評価	50%	出席状況、受講態度（積極性）

オフィスアワー	梶ヶ谷：通常は毎日午前11時～午後1時 確約の要があるときは事前予約 (kaji Xnvlv.ac.jp) (Xを@に変えて使用すること)
その他	学芸員課程用の学外実習届を必ず提出すること。